



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2011.7

No. 321

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



和歌の鳥

石光 幸(所沢市)

わが国で鳥を“観る”ことが探鳥と名付けられて普及したのは昭和になってからですが、鳥を“詠む”ことは古事記、万葉の時代から現代まで脈々と続いています。和歌の長い歴史の中の鳥を探鳥してみました。

◇「あらたまの年行き返り春立たば

まづ我が宿に鶯は鳴け」

年の初めにふさわしい一首を万葉集に見つけました。作者は大伴家持。万葉集を代表する歌人です。この歌は厳密には立春を前に詠まれたものですが、春の節目を迎えウグイスを待つ心は正月も変わりないでしょう。

初音を聴いて春を感じ、心ときめかすのはいつの時代も同じようです。

◇「うぐいすのはつ音は今日と我が言へば

君は昨日といふぞくやしき」

この心境、鳥見人なら誰でもわかると思います。詠み人は良寛禅師。世俗を脱した良寛サンでも…と微笑ましくなる歌です。

ウグイスをもう1羽(首)、古今集から…

◇「雪のうちに春は来にけり鶯の

こほれる涙いまやとくらむ」

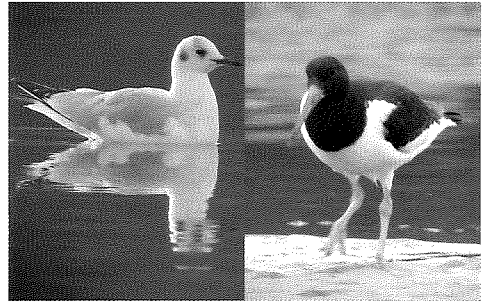
作者・藤原高子(たかひこ)は清和天皇の女御で二条の后と呼ばれた絶世の美女。「こほれる涙」という表現が女性らしくロマンチックな鶯の歌ですが、勅撰集に載った彼女の歌はこの一首のみ。歌よりも恋多き貴婦人として知られ、とりわけ平安朝屈指のイケメン在原業平との禁断の恋が有名です。スキャンダルの結果、東下りをするハメとなった業平がたどり着いた隅田川のほとりで詠んだ名作…

◇「名にし負はばいざ言問はむ都鳥

わが思ふ人はありやなしやと」

この都鳥(みやこどり)は、ミヤコドリではなくユリカモメです。ユリカモメを都鳥と名付けたのは前出の家持とされています。ミヤ

コドリは今でこそ三番瀬辺りで通年観察されるようになりましたが、かつてはさほど多く観られる鳥ではなかったと思われるので、2種がはっきり識別されていたか否か、気になるのですが資料が乏しくて判りません。



ユリカモメ(左)とミヤコドリ(右)

往時、最も多く詠まれた鳥はホトトギスです。百人一首で広く知られている歌…

◇「ほととぎす鳴きつる方をながむれば

ただ有明の月ぞ残れる」

後徳大寺左大臣藤原実定の千載集所収の歌です。昔の人は何よりもホトトギスの声を尊び、それも朝一番に聴くことを典雅なりとしていました。しかし、トケン類(現在はカッコウ科)は飛びながら鳴くため声を頼りにしても姿は見つけにくい。昔も今も変わらぬ探鳥の苦労がしのばれる歌ではありませんか!?

「和歌の鳥」に関しては、この人も欠かせません。放浪の歌人、西行法師。

新古今集に最多数採録され、桜の詠み人として有名ですが、鳥も多く詠んでいます。代表的な名歌…

◇「心なき身にもあはれは知られけり

鳴立つ沢の秋の夕暮」

この鳴がナニシギかは特定し難いのですが、歌にゆかりの地は神奈川県大磯です。昨年キョクアジサシで話題になった照ヶ崎海岸近くの東海道沿いに西行庵と鳴立つ沢の歌碑があります。照ヶ崎海岸はアオバト観察のポイントとしても有名です。アオバト観察の途次、ぜひお立ち寄りください。

西行は全国を旅して鳥を詠んでいます。ナント、伊良湖岬にも歩を印していました。

◇「巢鷹渡る伊良湖が崎を疑ひて

なほ木に帰る山帰りかな」

巢鷹は若鳥、山帰りは成鳥を意味し、鷹の渡りの様子を詠んだ歌です。伊良湖岬はこの頃すでに鷹の渡りの名所として知られていたようです。

西行の時代、架空の鳥も出ました。

◇「さらぬだに世のはかなさを思ふ身に

鶴(ぬえ)をきわたるあけぼのの空」

鶴は夜な夜な不気味な声で鳴く怪獣(鳥)で、時の天皇を悩ませ遂に退治されたと伝えられています。正体はトラツグミと考えられています。確かにヒーヒーと鳴く声は気味悪くも聞こえますが、怪鳥扱いはかわいそう。この歌のようにはかなさの象徴としておきましょう。



トラツグミ

昔、鳥は観賞の対象だけではありませんでした。鳥の薬効を詠んだ珍妙な歌…

◇「みみづくの骨は眩暈(めまい)の薬也

くろやきにして酒でのむ也」

◇「みさごただ身には能なく骨をとり

黒焼にして骨接となる」

いずれも江戸時代の「食物和歌本草」という書にある歌です。鳥の骨は漢方では貴重な薬劑なのでしょうが、それにしても眩暈にみみづく、骨接ぎにみさごとは…誰が考えたの？

明治以降も、多くの歌人が鳥を詠んでいますが、なかでもこの一首…

◇「白鳥(しらとり)は哀しからずや空の青

海をあきにも染まらずだよふ」

若山牧水の余りにも有名な歌です。この白鳥はカモメとされています。ナニカモメかは判りません。カモメの識別はたださえ難しいので、こだわるのはやめましょう。

牧水の鳥の歌を拾い出してみても、彼が大変優れたバーダーであったことが判りました！

◇「鶺鴒(ひわ)めげろ燕(つばき)雀(やまから)啼ききり

桜はいまだ開かざるなり」

◇「ほととぎす極鳥(かけす)ひよ鳥(なき)やまぬ

峽間(はざま)の昼の郭公(くわくこう)のこえ」

彼の歌には、様々な種名の鳥が登場します。フィールドガイド等ない時代に、しっかり識別していたのでしょうから大したもの。熱心な探鳥ぶりも歌からうかがえます。

◇「きりぎしに頭(かしら)真青(まきお)き鳥(きり)居りて

待てども啼かず浪(なみ)にくぐれり」

◇「藤(ふじ)蔓(つた)にとまれる小鳥(こどり)なにの小鳥(こどり)

ちさくつぶらに向(むか)むきにをり」

微細に観察し、識別しようとしている姿勢はまさにバーダーのかがみです。

残念ながら牧水は43歳で夭逝。6年後(1934年)、「探鳥」の名付け親でもある中西悟堂が日本野鳥の会を創設しています。この稿では割愛しますが悟堂も優れた鳥の歌を残しています。もし牧水が長生きしていたら、きっと野鳥の会に参加して2人で鳥の歌を競い合ったことだろうナ、と勝手に空想を楽しみながら拙稿を終ります。

(写真：編集部)

ノガンに魅せられて

榎本秀和(鴻巣市)

11月のハンガリーの風景は、朝・昼・夕を問わず、いつも斜光の中にある。東アジアでいうと樺太ほどの緯度にあたるこの国では、この季節、太陽がそんなに高く昇ることがないのだ。

私がこの国を訪れたいちばんの目的は、まずノガンを観察することだ。長女を伴い、この国の東部、ホルトバージの地にノガンの姿を求めたのである。

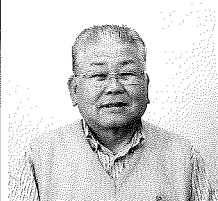
プスタ(ハンガリアン・ステップ)と呼ばれる大平原を探し歩いてゆくと、地平線のあたりにノガンらしき群れが目に入った。歩きに歩いて500mぐらいまで接近して、ようやくスコープにノガンの姿をはっきりと捉える。もっと近くから見たい。そう思っても、すでに彼らは警戒している様子である。少し飛んで、翼の上面のパターンを見せてくれたのは幸いであった。驚かさないうように遠回りに順光で見える側に回り込んで、ようやく納得ゆくまで観察することができた。大自然の中ではやはり自分の足に頼るしかない。周囲をコミミズクが飛び、ノウサギが駆ける。ノガンは早と若みと思われる20数羽の一群であった。

翌朝、今度はあっさりノガンを発見。やはり20数羽の群れだが、♂♀がはっきりわかる距離である。見られるときというのはこういうものだな、とつくづく思う瞬間であった。

さて、ノガンと聞いてすぐにその姿を思い浮かべられる人は、もしかしたら少ないかもしれない。しかし、私にとっては幼い日から想い焦がれた憧れの野鳥なのだ。あれは東京オリンピックの前だから、たぶん1963年ごろ。亡父に買ってもらった野鳥図鑑に見開きで「迷鳥」の頁があって、その中に何とも愛嬌のあるノガンの姿があった。何しろ空を飛ぶ鳥としては最大級の鳥である。日本のどこかで出会う機会もあろうかと日々を送るうちに、いつしか45年あまりの年月が流れてしまったというわけだ。

明けまして おめでとうございます

日本野鳥の会埼玉 代表 藤掛保司



会員の皆様、良いお年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

日本野鳥の会埼玉となりましてから2ヶ月を過ぎましたが、なじんで頂けましたでしょう

うか。名称が変わりまして、新デザインの腕章、旗に基づき、探鳥会、観察会、小中学校の総合的な学習の時間、公民館活動、地域の皆様方のご案内等々、心新たに今までと変わりなく、ご協力を宜しくお願い申し上げます。環境問題も時にふれ話題となっています。我々も野鳥観察を通してお役に立ちたいと考えております。

昨年、日本野鳥の会埼玉の発案で「緊急連絡カード」を探鳥会の受付時に、会員や一般の方々に配布して大変喜ばれております。また、日本野鳥の会、全国90の団体へも水平展開されております。

今年もバードウォッチングを楽しみ、健康で安全に過ごしたいとおもいます。皆様方のご健康とご活躍を、心よりお祈り申し上げます。

その晩、トーカイのアスー(貴腐ワイン)を味わいながら、私は満ち足りた気分でフィールドノートを記し終えていた。

◇観察野鳥 マガン カリガネ ハイイロガン アオガン ヒシクイ メジロガモ ツクシガモ(野生の)コブハクチョウ カタシロワシ セーカーハヤブサ(ハンガリーの国鳥) クロヅル クマゲラなどキツツキ8種 モリフクロウ シラコバト(多い) ヒメモリバト オオモズ ノハラツグミ ヤドリギツグミ ヨーロッパコマドリ アオガラ ニシツリスガラ キアオジ ハタホオジロ アオカワラヒワ ゴシキヒワ ズアオアトリ(真っ赤な)ウソ ニシコクマルガラス ミヤマガラス ズキンガラス ワタリガラス等々ノガンを含めて全部で75種



野鳥情報

さいたま市緑区見沼氷川公園（案山子公園）

◇9月14日午前7時頃、案山子公園東側のサクラ並木周辺でツツドリ1羽、今季初認。

9月20日、21日、22日の午前中と夕方、盤船祭祀公園側のケヤキ、サクラ、エノキ、ミズキの混合樹林にコサメビタキ、エゾビタキの混群が逗留。昨年より10日ほど遅い（船木数樹）。

さいたま市岩槻区長宮 ◇10月7日、車を運転中、上空を舞うサシバ1羽発見。車から出て、じっくり確認（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区馬込 ◇10月10日、さいたま緑のトラスト7号地でオオルリ♂若鳥1羽（菊川和男）。

さいたま市緑区三室 ◇10月11日午前8時頃、見沼代用水西縁斜面林の市民病院裏周辺でミズキの実を採餌するキビタキ数羽を見る。今秋は斜面林において来るのが早い。芝川右岸アシでノビタキ♂を見る（船木数樹）。

坂戸市浅羽ビオトープ ◇10月13日午前8時20分頃、ビオトープ内水路万葉橋下流右岸、河畔林の梢にエゾビタキ1羽。8時35分、上空を飛翔するカケス1羽。9時15分頃、駐車場上空をチョウゲンボウが飛翔する。そのすぐ下をセグロセキレイ1羽が飛ぶ（増尾隆）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇10月13日、ピクニックの森とその付近の田んぼでチョウゲンボウ、バツらしきものを捕食していた。アカエリヒレアシシギ冬羽1羽、水面



シロハラ（久保田忠資）

をぐるぐる回りながら、忙しく嘴を動かし採餌する。コサギ、ダイサギ、クイナ、オオバン、ヒバリ、ノビタキ、モズ、カワセミ、カケス、シジユウカラなど（陶山和良）。

所沢市狭山湖 ◇10月14日午前、狭山湖に冬鳥が到着していました。カンムリカイツブリ1羽、マガモ1羽、コガモ12羽、オナガガモ4羽、キンクロハジロ2羽。どのカモも着水時はコガモの群れと合流し、その後しばらくすると種ごとに分かれました（小林茂・ますみ）。

蓮田市蓮田 ◇10月14日午後8時、フクロウの声を聞く（本多己秀・久文字）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇10月15日、エゾビタキ2羽、キビタキ♀10羽ほど、カケスなど。10月17日、キビタキ♂1羽♀7羽、カケスなど。10月22日、シメ1羽、初認。オオタカ若鳥にカラスがモビング。10月24日、ウグイスとアオジの地鳴き。キビタキ♀8羽ほど。キビタキに混じってミズキの実にたかるムギマキ♀タイプ発見。近くにいたカメラマンに撮影してもらう。10月25日、キビタキ♀5羽、ムギマキ♀タイプ1羽。アリスイが灌木上で「クイクイ」と鳴く。遠くからも同様の声、縄張り宣言？ 上空をサシバ3羽が舞い、西へ。更にチゴハヤブサ？ 2羽。10月26日、キビタキ♀3羽、ムギマキ♀タイプ1羽、イカルチドリ2羽、アリスイ1羽、アカゲラ♀1羽など。10月29日、ムギマキにカメラマン30人以上いてビックリ。キビタキ♀2羽、シメ2羽。ホオジロの囀り。ヒドリガモ30羽＋。ツミ幼鳥が、パタパタピューッとキジバトのディスプレイフライトのように飛んだ。11月1日、ムギマキがまだいる。どうも若鳥のようだ。キビタキ♀2羽、アオジ、ジョウビタキ、アリスイなど。11月4日、ムギマキは渡去したらしい（鈴木紀雄）。◇10月31日午後、ツグミ1羽、今季初認。マヒワ16羽の群れ、カケス3羽＋。ムギマキは、午前中よく出ていたそうです（藤原寛治）。

さいたま市桜区荒川総合運動公園周辺 ◇10月16日、ハヤブサ、チョウゲンボウ各1羽。

アマツバメ30羽土。グラウンドに人が多かった為か、いつもはグラウンドにいるヒバリ十数羽が田んぼにいて、高く舞い上がり回っていた（長嶋宏之）。

蓮田市黒浜 ◇10月18日、東埼玉病院でエゾビタキ3羽、カケスなど。10月29日、同所でキビタキ♂1羽。クロジの「チン、チン」の地鳴き。姿は一瞬だけ。11月4日、田んぼでノビタキ1羽（鈴木紀雄）。

戸田市彩湖 ◇10月19日、アジサシ若鳥4羽、カンムリカイツブリ冬羽1羽、コガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ヒドリガモ多数（海老原美夫）。

さいたま市見沼区膝子 ◇10月20日、ノビタキ1羽。10月26日、電線にとまるカラス約50羽の群れをチェックしたらミヤマガラス3羽（鈴木紀雄）。

狭山市入間川 ◇10月22日、ノビタキ（久保田忠資）。

吉見町大串 36. 0153N 139. 4842E ◇10月22日、ノゴマ♂の若鳥と思われる固体が今年も飛来した。渡りの途中だったのだろう、23日にはいなくなっていた。他にノスリ、オオタカ、モズ、ハクセキレイ、ヒバリなど（長嶋宏之）。

加須市中種足 ◇10月22日、タヒバリ8羽の群れ、今季初認。クサシギ2羽（鈴木紀雄）。

川島町小見野 ◇10月24日、ジョウビタキ今季初認。第1回冬羽と思われる♂1羽。背面は濃褐色の幼羽が残り、頭が灰褐色で白っぽくない個体（榎本秀和）。

狭山市内の公園 ◇10月25日、クロツグミ♂、10日間くらい滞在。10月27日、クロツグミ♀。11月1日、キビタキ（久保田忠資）。

伊奈町小針内宿 ◇10月22日、約200羽のカラスの群れ中にミヤマガラス約30羽（鈴木紀雄）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園付近 ◇10月24日、今季初認のジョウビタキ♂1羽。人が通りかかるとすぐに飛び去り、その後付近を探しても見つからない。まだ移動の途中で定着していない（海老原美夫）。

伊奈町小室 35. 9923N 139. 6381E ◇10月27日、ハシブトガラスとハシボソガラスの群

れに混じって、ミヤマガラスが電線にとまっていた。昨年と同じ日の初認だ。ミヤマガラスを数えていたら、休耕田からスズメとカラヒワが騒ぎながら飛び立った。これを合図に電線のカラスと屋敷林にいたカラス100羽土がカラス柱を作って高く舞い上がった。その中にミヤマガラスと思える個体が20羽+いた。見ると、上空をコミミズクがカラスに追われて飛んでいた。その後すぐ、オオタカとチョウゲンボウがカラスにモビングされながら通過した。帰り際、ハヤブサが何事もなかったかのように飛び、遠くでノスリが輪を描いていた。この間30分足らず。正にタカのオンパレードだった（長嶋宏之）。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇10月29日、山田大沼でコガモ90羽+に混じってオナガガモ♂第1回冬羽が1羽いた（長嶋宏之）。

蓮田市笹山 ◇10月29日、ノビタキ2羽。11月4日、土起しされた畑にイカルチドリ4羽の小群（鈴木紀雄）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇10月31日、ジョウビタキ♂。ツミが枯れ木の梢で休息。傍らをヒヨドリが飛んでも知らん振り。11月1日、ツグミ3羽、今季初認（長嶋宏之）。

渡良瀬遊水地 ◇11月2日、チュウヒ10羽ほど、ハイイロチュウヒ♀3羽、ノスリ5羽、チョウゲンボウ2羽、コチョウゲンボウ4羽、ミサゴ3羽など（鈴木紀雄）。

春日部市大場 ◇11月5日午後4時26分、旧春日部市立沼端小学校の東側学校林で校庭の大きなポプラの木の樹冠から「クワッ、クワッ」の鳴き声が2、3声聞こえてきた。思わずママチャリを止め目視していると、樹冠辺りからツグミ1羽が一声鳴いて飛び立ち、南東の空に飛び去った。今季初認。付近には、セグロセキレイ3~4羽、電線に止まっていた（石川敏男）。

表紙の写真

スズメ目ウグイス科キクイタダキ属キクイタダキ 小さい上によく動いていましたが、幸運にも撮ることができました。

鶺鴒喜雄（深谷市）



行事案内



アオサギ(プリングマン・ウィリアム)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 **持ち物**：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。 **解散時刻**：特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止。小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

さいたま市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：1月4日(火)

集合：午前10時00分、さぎ山記念公園入口。

交通：大宮駅東口⑦番バス乗り場 9:27 発浦和学院高校行き、または東浦和駅 9:25 発さいたま東営業所行きで「さぎ山記念公園」下車。駐車場はありますが飲酒運転厳禁。

担当：海老原、楠見、工藤

見どころ：新年の挨拶を交わして初探鳥会。

昼ごろからはいつもの野外懇親会を予定しています。酒類、食べ物ご持参歓迎。敷物も各自ご用意ください。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月7日(金)

集合：午前9時30分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅から、立正大学行き 9:10 発バスで「滑川中学」下車。ひとつ手前の「森林公園南入口」は通過です。

費用：入園料 400 円(子供 80 円)

担当：藤掛、大坂、兼元、杉原、高橋(ふ)、高橋(優)、中村(豊)、林、藤澤

見どころ：疎林地帯を抜けて山田大沼まで歩き、ルリビタキなど冬の小鳥を探します。

ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：1月8日(土)

集合：午前9時30分、JR 総武線船橋駅改札口付近。集合後京成バス 9:40 発船橋海浜公園行きにて終点下車。または、午前10時船

橋海浜公園バス停。

担当：杉本、佐久間、菱沼(一)、齋藤、高橋(優)、和田

見どころ：ふなばし三番瀬海浜公園の前の海が「三番瀬」です。首都圏では鳥の数が一番多い場所で、干潟のシギ・チドリ、海のカモ類、タカ類など名物に不自由はしません。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：1月8日(土)

集合：午前9時10分、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口から、茨城急行バス松伏町役場行き 8:47 発で、「まつぶし緑の丘公園」下車。

担当：橋口、田邊、吉岡、榎本(建)、植平、野村(弘)、野村(修)、小林(善)、森下、進士、佐野、佐藤

後援：まつぶし緑の丘公園管理事務所

見どころ：公園の池のカモ、数は多くはないですが7~8種観察できます。近くの屋敷林を巡り冬の小鳥やシラコバトを探します。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：後藤、森本、中里、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼

見どころ：一段と寒い中、当地で越冬中の冬鳥たちをじっくりと観察します。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：1月9日(日)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：埼京線武蔵浦和駅東口②番バス乗り場から、下笹目行き8:41発で「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り、左折して土手を越える。

担当：倉林、藤掛、松村、有馬、赤坂、新部、赤堀、馬場、野口(修)、大井

見どころ：今年も西岸を歩きます。メインは水鳥ですが、ベニマシコ、アリスイ、タカ類などなども期待しましょう。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：1月10日(月・祝)

集合：午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス③番から、国民年金春日部エミナース行き8:41発で「共栄大学・短大前」下車。西へ徒歩約7分。

担当：石川、吉安、橋口、新井(良)、吉岡(明)、野村(弘)、野村(修)、進士、佐藤

見どころ：2010年はアカハラとツグミのツーショット。09年ルリビタキ、07年ミヤマガラス……。屋敷林や雑木林、田んぼを巡りながら観察します。頭上のタカ類にも注意。

茨城県・菅生沼探鳥会

期日：1月15日(土)

集合：午前8時50分、東武野田線野田市駅前、または午前9時40分、茨城自然博物館出口ゲート前。

交通：東武野田線大宮7:58→春日部8:21→野田市8:49着。集合後茨城急行バス岩井車庫行き8:55発で「自然博物館入口」下車(大人410円)。徒歩約15分。

費用：野外施設のみ入館料200円、本館・野外施設入館料520円が必要です。

解散：現地にて午後1時ころ。

担当：入山、石川、吉原(俊)、内藤、植平、佐野

見どころ：久しぶりの菅生沼探鳥会。茨城県自然博物館の野外施設を中心に冬鳥たちや、沼の橋からコハクチョウやカモ類、アシ原の上を飛ぶ猛禽類を観察します。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：1月16日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、新部、渡辺、若林、小菅、赤堀、増田、宇野澤、須崎、船木、畠山、柴野

見どころ：三室の探鳥会は来月に300回の記念日を迎えます。今回は大道橋以北芝川上流へ向かいます。ヨシガモなどが待っています。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：1月16日(日)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→春日部7:36→栗橋7:56→柳生8:06着。またはJR宇都宮線大宮7:03→栗橋7:38着で、東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：内田、玉井、田邊、四分一、中里、植平、山田(東)、茂木、進士、野口(修)、佐藤、佐野

見どころ：谷中湖のカモやカイツブリの仲間たち。定番、浮島の上を飛ぶチュウヒは何度見てもいいですね。ノスリ、ミサゴ、ハヤブサが姿を見せてくれれば言うことなし。

久喜市・久喜菖蒲公園探鳥会

期日：1月22日(土)

集合：午前9時30分、久喜菖蒲公園駐車場。

交通：JR宇都宮線白岡駅西口から、8:32発朝日バス菖蒲仲橋行きで「除堀(よけぼり)」

下車、徒歩約 15 分。バス停からご案内します。

担当：長嶋、内田、大坂、長野、植平、佐野、佐藤、竹山

見どころ：初心者大歓迎。「野鳥観察はカモの識別から……」。たくさんのカモたちが図鑑通りの姿や顔でお待ちしています。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月22日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108 号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月23日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越 8:44 発、所沢 8:39 発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、星、山本(真)、久保田、石光、山口、水谷
見どころ：水辺の青い鳥、林の青い鳥を探します。地鳴きや鳥たちのたてる小さな音を頼りに丹念に探せば、たくさんの冬鳥たちに出会えます。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：1月23日(日)

集合：午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：田中、玉井、赤坂、長野、青木、菱沼(一)、吉安、榎本(建)、長嶋
見どころ：ホオジロ科の4種(オオジュリン、ホオジロ、カシラダカ、アオジ)をはじめ、沼ではカワセミが待っています。空にはオオタカ、チョウゲンボウが……。

長瀨町・長瀨探鳥会

期日：1月23日(日)

集合：午前9時20分、秩父鉄道長瀨駅前。
交通：秩父鉄道熊谷 8:00→寄居 8:28→長瀨 8:47 着、または所沢 7:28 発西武秩父・御花畑乗換え長瀨 9:19 着に乗車。
解散：昼ごろ高砂橋付近の弁天様、トイレあり。

担当：井上、佐久間、小池(一)、小池(順)、

青山、堀口、大澤、鵜飼、岡田
見どころ：荒川の河原を冬鳥はもちろん、長瀨の冬景色も楽しみながら歩きます。足拵えと防寒はしっかりと。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：1月27日(木)

集合：午前9時、羽生水郷公園第一駐車場。
交通：東武伊勢崎線羽生駅東口から、8:05 発

羽生市営バス(ムジナもん号)に乗車で、「羽生水郷公園・キャッセ羽生」下車。

担当：中里、新井(巖)、栗原、四分一、植平、飛田、竹山

見どころ：遠くに雪化粧の日光連山を望む、人影も少ない静かな公園です。池やアシ原、枝かげに鳥たちの賑わいがあります。連山をバックにタカ類の飛翔も期待します。

ご注意：帰りのバスは14:51 発です。

茨城県・平潟港探鳥会(要予約)

期日：1月29日(土)～1月30日(日)

集合：午前7時30分、JR大宮駅西口ソニック大ホール前広場。

交通：全行程貸し切りバスを利用。

帰着：30日午後5時ころを予定。

費用：30,000 円の予定(1泊3食、バス代、高速料、保険料など)。過不足の場合は当日精算。なお29日は昼食持参のこと。

定員：30名(埼玉会員限定、先着順、最少催行人員16名)。

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢(保険加入が必要)、電話番号、喫煙の有無を明記して、橋口長和

まで。12月27日以降の消印を有効受付とします。

担当：橋口、榎本(秀)、田邊、玉井

見どころ：茨城の大竹海岸でアビを探しながら海沿いを北上、涸沼ではカイツブリ、カモなど。平潟の宿ではアンコウ鍋と温泉を堪能。翌日は福島県の漁港を巡り、カモメ類、クロガモなどの海鳥を探します。

ご注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意は出来ません。



行事報告

9月26日(日) タカの渡り調査

ボランティア：23名

石光章、伊藤幸子、大竹邦夫、加藤重夫、金井祐二、倉崎哲郎、後藤康夫、小貫とみ子、小貫正徳、佐久間博文、柴田和見、志村敏雄、杉原みつ江、鈴木敬、田島利夫、千島康幸、富田美邦、中村豊己、中村容子、野口修、藤澤洋子、山田東二、山田良子 ◇中間平緑地公園と天覧山で実施されたが、物見山は天候不良で中止になった。

9月26日(日) 狭山市 入間川

参加：33名 天気：晴

カイツブリ ダイサギ コサギ カルガモ トビ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ アオゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 今回は、アオゲラ1羽でかなり満足度が上がった感じがする。稲荷山公園に着くまでは、鳥の数も種類も少なめで何となく物足りない感じだったが、アオゲラの登場で不満解消。最初よりも最後のほうに大物が来たほうがいいね。(長谷部謙二)

10月3日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：53名 天気：晴時々曇

カイツブリ ダイサギ アオサギ カルガモ オオタカ サシバ ノスリ チョウゲンボウ キジコチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ シジュウカラ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) (番外：ドバト) 汗ばむぐらいの秋晴れとなった。あちらこちらからモズの高鳴きが聞こえる中出発。早々にサシバの群れが現れて盛りあがった。その後もノビタキやカケスを観察。夏鳥のコチドリ・ツバメも現れて、秋らしい探鳥会となった。(須崎 聡)

10月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加：10名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ キジバト コゲラ ヒバリ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ エゾビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外：ガビチョウ) 朝方まで雨だったが天候も回復。旧押切橋へ向かう。土手に出てすぐエゾビタキが出現。途中、樹上にオオタカ、上空にはノスリ、トビ、ミサゴ。河原の草地ではノビタキも姿を見せてくれた。カモ類はまだ少なく、カルガモ、コガモ、オナガガモが数羽。少人数で皆さんゆっくり観察できたのでは……。 (後藤康夫)

10月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：12名

新井浩、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、柴野耕一郎、志村佐治、武井昶嗣、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫、吉原早苗

10月17日(日) 浦和市 三室地区

参加：70名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ イソシギ キジバト ツツドリ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外：ドバト) 暑い夏もようやく終わり、秋の気配がおとずれてきた。ツバメやオオヨシキリも姿を消し、ヒヨドリが戻ってきてその数が増えたようだ。また、モズの高鳴きがあちらこちらで聞こえる。しかし10月の探鳥会といえはやはりノビタキ。皆の期待通りに出現。全員がじっくり観察できた。またツツドリも現れ、見ることであった参加者は大喜び。異常気象が続いているが鳥達は元気に活動している。いつまでもこの鳥達と会える見沼田圃であってほしいものだ。(青木正俊)

10月23日(土) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：43名 天気：晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ スズガモ ミサゴ トビ ノスリ チュウヒ ハヤブサ キジ オオバン タゲリ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス シジュウカラ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) (番外: ドバト) 下宮橋を渡り谷中湖を覗くと、数は少ないがカモの仲間はそのそこ入っていた。中ノ島の観察台付近でチュウヒとミサゴを見る。歩き始めると上空にコハクチョウが2羽、遊水地では珍しく、皆歓声を上げる。遠くにはカンムリカイツブリも参上していた。途中、栃木県支部から「タゲリが行くよ。」と連絡があり、程なく4羽がやって来た。今回もハヤブサは健在、ジックリ観察できた。小鳥類はちょっと少ないがヒッ、ヒッ、と1年ぶりの聞きなれた声。鳥合わせ後ラムサール関係の報告。 (内田孝男)

10月23~24日 (土~日) 長野県 戸隠高原
参加: 27名 天気: 23=晴、24=曇

オシドリ カルガモ ノスリ オオバン キジバト アオバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ジョウビタキ アカハラ シロハラ マミチャジナイ ツグミ (ハチジョウツグミ) ウグイス センダイムシクイ キクイタダキ ムギマキ サメビタキ エゾビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ マヒワ イカル スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) さわやかな秋空が広がり、非常に気持ちの良い戸隠であった。ただ、例年と異なり、パワースポット+吉永小百合効果で奥社参道が非常に混雑しているようであった。幸い植物園内は人も多くなく安心した。早速、全員で集合写真を撮影。まず鏡池へのルートを進む。例年よりも紅葉が遅く、鳥の姿も少ない。鏡池で昼食。さすがに紅葉は綺麗で、遠くにオシドリがいた。ムギマキをさがしつつ随神門へ向かう。奥社への参道はすごい人出で目を疑うほどである。参道先のツルマサキで念願のムギマキにご対面。

その後、いつものツルマサキで綺麗な雄も見ることができた。翌朝は、もうひとつのお目当てのマミチャジナイを探すが、植物園では見つけれなかった。キャンプ場に移動後、ツグミの群れの中に見つけ、無事全員で確認。ハチジョウツグミも中において、思わぬおまけに大満足。 (菱沼一充)

10月24日 (日) 川越市 西川越

参加: 39名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハイタカ キジ イカルチドリ コアオアシシギ タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外: ドバト) 秋の訪れが夏の猛暑のせいか遅れているようで、鳥の飛来も遅れているようだったが、探鳥会を始めてみると、まず公園の池でカワセミ、ハイタカ、カモ類、入間川に行くと、シギ、チドリ、サギが出た。コアオアシシギはここでは初めてで、越冬してくれるか今後が楽しみ。 (佐久間博文)

10月30~31日 (土~日) 宮城県 伊豆沼

最少催行人数に達せず中止。 (榎本秀和)

10月31日 (日) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 30名 天気: 曇

カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ コジュケイ キジ バン オオバン キジバト ツツドリ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外: ドバト) 最初は、めずらしくもキセキレイ3羽。カケスがなにを食べているのかと見ていると、ツツドリがいるとの声。全員がツツドリを見ることができた。なんと杭の上におとなしく留まっているのである。浅間神社の森を出たところで、ジョウビタキのお出迎え。出てくれてひと安心。鳥合せ場所ではシメが高枝のてっぺんに出た。これが本当のシメくくりの鳥合せなどと言いながら始めたら、キジの一声のおまけが付いた。 (内藤義雄)

野鳥記録委員会最新情報

日本野鳥の会埼玉 記録委員会



●コホオアカ

分類 スズメ目ホオジロ科ホオジロ属

英名 Little Bunting

学名 *Emberiza pusilla*

本年 10 月 25 日(月)午後4時頃、さいたま市桜区秋ヶ瀬公園近くで、岡田典夫さん(さいたま市・会員)が撮影しました。「写真奥のノビタキを撮影していてその前にとまった鳥に気づき、コホオアカと思いデジスコ撮影。後日写真を見た人からコホオアカだと指摘された」とのこと。

本種は県内で写真撮影された確認記録として 1993 年 12 月 31 日戸田市道満(現在の彩湖付近)と 2002 年2月 17 日深谷市高島の2例があり、今回は3例目の確認記録です。ほかに、1982 年 11 月朝霞市内などの観察記録もあります。



●財団(本部)、公益財団法人への移行に遅れ

11 月 30 日付け文書によれば、昨年9月中に書類をまとめ 10 月に申請を行ったが、年明け以降の認定にずれ込む可能性も少なくなく、決算の都合から4月1日登記となる場合もあり得るとのこと。当会(埼玉)はすでに昨年 11 月1日付けで名称変更し、銀行口座名義の変更などもすませました。

●新しい腕章と集合旗で探鳥会

新しい「日本野鳥の会埼玉」の腕章と集合旗が

各地の探鳥会で活躍を始めました。写真は 11 月 14 日(日)熊谷市大麻生探鳥会です。



●普及活動

11 月 19 日(金)さいたま市立大原中学校1学年総合的な学習の時間「地域を知る・見沼の歴史」の体験学習で、楠見邦博・新部泰治・若林正徳・船木数樹が探鳥の指導をしました。

●会員数は

12 月 1 日現在 2,043 人です。

活動と予定

11月13日(土) 12月号校正(海老原美夫・大坂幸男・長嶋宏之・藤掛保司・山田義郎)。

11月21日(日) 役員会(司会:長野誠治、各部の報告・緊急連絡カード増刷・その他)。

11月22日(月)「支部報だけの会員」に向け12月号を発送(倉林宗太郎)。

●1月の予定

1 月 8 日(土) 編集部・普及部・研究部会。

1 月 15 日(土) 2 月号校正(午後 4 時から)。

1 月 16 日(日) 役員会 (午後 4 時から)。

1 月 22 日(土) 袋づめの会 (午後 3 時から)。

編集後記

シンポジウム『生きもの地図を未来へ～浜口哲一さんの足跡と、これからの道～』に参加した。400 名以上の人々が、6 名の講演者の話の一つ一つ聞きながら聞き入っていた。その姿に浜口さんのお人柄がひしひしと伝わってくるシンポジウムだった。「トコロジストはアマチュア最高の楽しみ」「市民参加調査の意義」には、自分もそうありたいと強く賛同できた(部)。

しらこぼと 2011 年1月号(第 321 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社